

令和4年1月31日

東松島市議会議長 小野 幸男 様

(会派名) 自由クラブ

代表者氏名 齋藤 徹

会派活動実施報告書

東松島市議会政務活動費をもって、下記の会派活動等を実施したので、報告します。

1 会派活動の項目 (該当を○で囲む)

調査研究費、研修費、広報費、広聴費、要望・陳情活動費、会議費

2 活動名称： 自由クラブ視察研修

3 実施期日： 令和4年1月21日～令和4年1月22日

4 活動成果：宮城県蔵王町の農業、観光に関する現状と取組、県内の道の駅、観光施設の集客の現状について視察研修を実施し、会派としての知見を深めることができた。

詳細は別紙、各項目を参照。

5 添付書類： 報告書 4P



蔵王町視察研修

日時：令和4年1月21日 13:30～17:00

場所：蔵王町役場、蔵王町有害鳥獣解体場

視察概要

自由クラブでは、宮城県蔵王町の農業と観光の現状と特性についての視察研修を行なった。

○農業政策の手法について

蔵王町では基幹産業である農業と観光のまちづくりを推進してきたが、農業をはじめとする各種産業の就業者数の減少と高齢化が進み担い手の確保が課題となっている。

今後は各種産業の競争力強化、知名度を生かした観光まちづくりと地域ブランドの振興に努め、各世代が得意分野を活かし地域貢献できる取り組みを進めていくとの説明があった。

近年の取り組みとしては、「地産地消の推進」「農畜産物の蔵王ブランド化」「6次産業化」を積極的に推進して付加価値の高い生産に取り組んでいる。

特に、梨、りんご、JAPAN X（豚）及び蔵王爽清牛は、ふるさと納税の返礼品として主力を担っている。高原野菜などの生産物に関しても、地元学校における給食や高級旅館での食材として利用されている。

○有害鳥獣対策について

有害鳥獣による農作物被害が近年増加傾向にあり、対策として捕獲を行っている。

捕獲数も増加していることから、町では電気柵の購入経費の一部補助を行い、捕獲した有害鳥獣を解体処理できる解体場を建設している。

（蔵王町有害鳥獣解体処理施設概要）

一般的に迷惑施設と考えられる施設建設にあたり、地元住民と十分な対話を行っている。

その際、住民からの意見と要望を反映した施設として平成27年に運用を開始した。

処理能力：1日 600 kg

事業費：16,719 千円（内交付額：7,534 千円）

年間稼働コスト（R3 予算）：1,253 千円

蔵王町鳥獣被害対策実施隊：5 隊、46 名（R3.4.1 現在）

現在解体処理した野生獣の肉類は全て焼却処分しており、放射能濃度が低下した際の食肉加工施設への転用には、新たな設備投資が必要であり今後の課題としている。

○体験交流活動の推進について

コロナ禍による首都圏への修学旅行が難しくなっている事から、蔵王町では「農業体験」「畜産加工体験」「自然体験活動」「工芸体験」等の日帰りや宿泊を伴う体験学習プログラムを提供し、学校等に関心を持ってもらう、家族での観光のきっかけづくりにつなげている。

○観光誘客事業について

コロナ化の影響で集客イベントの開催が中止となった事から、蔵王町では国の臨時交付金を活用して様々な支援事業を実施した。
主なものとしては以下のとおりである。

・地域商業活性化事業

飲食店応援事業（1 世帯 5000 円分の食事券の配布）

小売店等応援事業（1 世帯 3000 円分のクーポン券の配布）

・宿泊施設応援事業

遠刈田温泉旅館組合「割増宿泊券」（10000 円で 13000 円分）

ペンション等宿泊施設「宿泊割引券」（1 人 2000 円割引）

宿泊特典応募キャンペーン（抽選で蔵王町の特産品が当選）

スキー場支援事業（宿泊客にスキーリフト無料券か雪上車無料券の配布）

・観光誘客にぎわい創出事業

ダイレクトメール事業（巨理町、山元町、丸森町、福島県相馬市、新地町など周辺自治体約 4 万世帯に「蔵王おでかけブック」を発送）

報知新聞蔵王町広告掲載事業（関東版：青森県から静岡県約 80 万部に観光 PR を掲載）

冬季観光誘客広報宣伝事業（テレビ、ラジオ、新聞、JR 仙台駅内デジタル広告で蔵王町を宣伝広告）

所見

蔵王町では中山間地の特性を活かした畑作、果樹、畜産の複合経営が行われており、地元産品の地産地消と農畜産物の地域ブランド化に精力的に取り組んでいると感じた。

また、観光地である特性を活かした地元産品の旅館等宿泊施設での提供といった地域ブランドの定着化と観光客への周知する手法は学ぶべきところ非常に大であった。

観光自体も、従来の観光から、「農業体験」「畜産加工体験」「自然活動体験」等の日帰りでも可能な体験プログラムの充実を図る手法や周辺自治体へのおでかけマップの配布などは、観光客の滞在時間が比較的短時間な本市観光の参考になるものではないだろうか。

今後、本市にはない魅力を持っている蔵王町との交流は観光分野をはじめとする多くの分野において好影響をもたらしてくれるものと期待する。

県内道の駅、観光施設視察

日時：令和4年1月22日 11:00～17:00

場所：蔵王酪農センター、道の駅「村田」物産交流センター、JRフルーツパーク仙台あらはま、道の駅かくだ、道の駅おおさと、

視察概要

自由クラブでは、本市計画中の道の駅と令和の果樹の花里づくり構想の将来的な展望を見据えた類似施設の現状について視察を行った。

各施設の現状・所見

当初予定していた蔵王酪農センターへの視察、道の駅「村田」物産交流センターに加えて県内各道の駅、観光施設の現状について視察した。

各道の駅を視察すると、陳列している商品に地元のもものは当然のことながら、周辺自治体や県外の産品についても陳列しているところが多く見られた。

このことから、本市計画中の道の駅では、各道の駅が似たような内部の構成となっている現状を踏まえれば、現段階での正解に近い形に落ち着いた結果とも言える。

そのほか、大型車両も駐車可能な広大な駐車場、資料館やインフォメーショ

ンセンター等の付帯施設も集客の要因と考えられ、本市計画の中でどのように展開をしていくのか模索する必要性を感じた。

他の道の駅との差別化を図るためには、ブルーインパルス等の本市独自の観光資源の活用も視野に入れなければならないだろう。

また、JRフルーツパーク仙台あらはまにおいては、令和の果樹の花里づくりの類似施設として視察を行ったが、広大な農地面積の中に多種多品目の果樹が植樹されており、一年を通して安定した集客が期待できる施設といった印象を受けた。

令和の果樹の花里づくりにおいては、観光客の再来訪が期待できる魅力ある施設づくりが求められると感じた。